

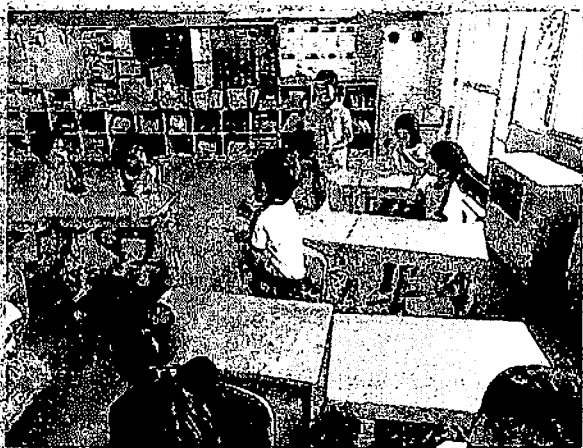
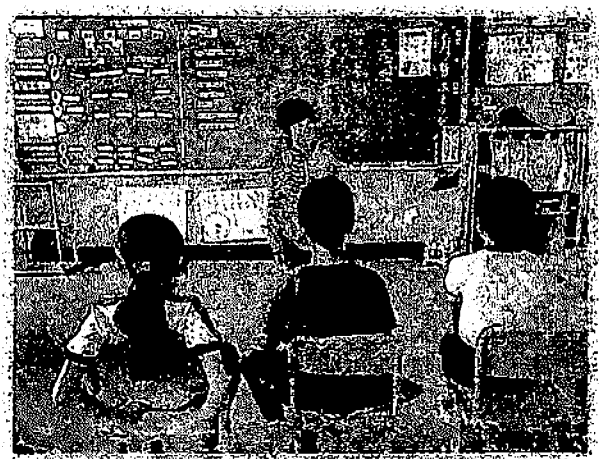
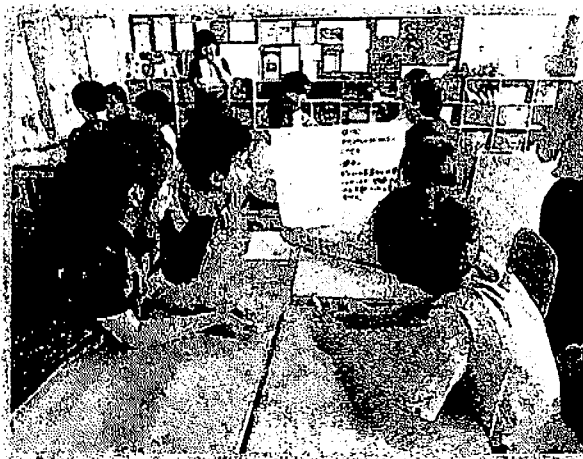
平成29年8月23日

印旛地区教育研究集会

国語科「話すこと・聞くこと」分散会 提案資料

研究主題

主体的に自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成
～伝え合う喜びを大切にした言語活動を通して～



第二部会 富里市立根木名小学校
小林 基樹
片井 綾

～目 次～

1	研究主題	1
2	研究主題について	1
3	研究仮説について	2
4	本校において児童に身に付けさせたい力	3
5	活動の実践① 第2学年	4
	活動の実践② 第4学年	11
	活動の実践③ 第6学年	18
6	成果と課題	25
7	その他の実践資料	28

1 研究主題

主体的に自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成
～伝え合う喜びを大切にした言語活動を通して～

2 研究主題について

(1) 学校教育目標から

本校の教育目標は、以下の通りである。

豊かな心をもち、主体的に学ぶたくましい児童の育成

<めざす児童像>

- ねばり強く、明るく健康な子ども
- こころ豊かに、思いやりのある子ども
- なかよく、主体的に学ぶ子ども

学力を定着させるにあたり、本校では、

- ①どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性など)。
- ②何を知っているか。何ができるか(個別の知識・技能)。
- ③知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力など)。

の3つの視点を総合的に判断して学力ととらえ、学習指導にあたっていく。この考えが「主体的に学ぶたくましい児童」を育てることにつながるものである。

(2) 学習指導要領から

学習指導要領では、以下の4点を「学習指導要領改訂の基本的な考え方」としている。

- 教育基本法改正などで明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成する。
- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力などの育成のバランスを重視。
- 言語活動の充実
 - ・国語をはじめ各教科などで記録、説明、批評、論述、討論などの学習を充実。
 - ※「内容の取扱い」から「内容」へ格上げ。
- 教科指導において、「深い学び」・「対話的な学び」・「主体的な学び」を推進する。

学習指導要領においては、国語以外の各教科・領域でも言語活動の充実を図ることを推進している。「話すこと」「聞くこと」の活動は、「生きる力」の育成に欠かせないものである。インターネットが普及し、直接対話をしなくても意見を交換できる時代になってきたが、表情・声の抑揚・強弱などは文字だけでは伝わらない。相手の人数によっても話し方が変わる。言葉を通じて他者とのコミュニケーションをとる力が必要である。そのため、本校では、相手と向き合うことの大切さを意識させるために、まずは、「聞くこと」を重視することを考えて指導を行っている。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、国語の学習を好きだと思う児童が、全校で80%を超える。しかし、「話すこと」は29%、「書くこと」は41%、「聞くこと」は43%、「話し合うこと」では52%の児童が好きと答え、半数に満たない結果となっている。傾向として、学年が上がるにつれ、徐々に好きではなくなってしまうことがうかがえる。理由として、「話すこと」、「聞くこと」については、日頃から誰かと話をしているために、だんだんと学ぶ必要性を感じなくなってしまうことが挙げられる。学習する意欲も下がり気味である。また、教師は、日常の会話はもちろんのこと、他の各教科・領域においても発表したり相談したりする場などを設けることで、「話す・聞く」活動を行っている。そこが、盲点となり確実に身に付けるための支援をしているつもりになっているのではないかと推測できる。「話し合うこと」においては、高学年になるほど、グループなどでの話し合い活動が増えるため、好きだと感じる傾向にある。そのため、低学年の時から、「話す」「聞く」「話し合う」活動の仕方を意識させるようにしたい。自分の思いを伝えるために相手と直接話すことの必要性が高まれば、主体的な活動になると考える。

3 研究仮説

【仮説 1】

話を聞く場面において、聞き手を育てれば、自分の思いや考えを主体的に伝え合うことができるであろう。

話し合いを行うにあたっては、唐突に話し合う活動を取り入れても、子どもたちはどのように実践すればよいのか戸惑ってしまう。そのために、まず聞き手を育てる事から始めることにする。聞こえていても聞いていない児童が時々いるので、「聞く」ではなく「聞こうとする」意識を高められるようにしたい。そして、話し手も自分の考えをしっかりと聞いてくれる姿勢を感じることで、話すことへの抵抗を減らせると考える。特に、教師の説明だけでなく、友達の発表ほど聞く姿勢を日頃より大切にしたい。このように、話の聞き方を身に付けた上で話し合う活動を行えば、主体的に取り組むことができるであろうと考える。

<手立て>

(1) 活動の仕方のルール作り

- ・低・中・高で系統立てた、「聞き方」の具体的な方法を作成する
- ・日頃から聞こうとする意識を育てる
- ・自己評価のためのチェックリストを作成する
- ・話し手・聞き手を相互に見合うようにする

(2) 見通しをもった取り組み

- ・聞く視点をはっきりさせるために、話し合うテーマを明確にする
- ・見本を提示する

(3) 繰り返す場の設定

- ・各教科・領域において短時間で話し合う場を繰り返し設定する
- ・聞き取りミニゲームを行う



【仮説 2】

「話す」「聞く」「話し合う」場面において、自分の思いや考えを表現する言語活動を工夫すれば、伝え合う力が高まるであろう。

話し合うためには、思いや考えを表現するための言語の獲得も必要である。また、スムーズな発音を促すために、話すためのポイントを意識して発表できるようにする。

話し合いの場では、自分の言葉で根拠を必ず書かせてから行うようにしたい。書くことで自らの思考を整理してから、意見交換を行えば、順序立てて話し合いができると思われる。また、グループで発表の際にはグループの全員が説明できるように、話し合いが解決した後に練習時間を設けるようにする。さらに、話し合う内容や、時間を限定することで、児童は目的に合わせて、「〇〇のために」と考えをまとめながら取り組むようになると思われる。また、児童にとって必要感のある課題を設定することで、自分の意思を伝えるために単元を通して活動に意欲的に参加できるだろうと考える。このことから、伝え合うための技能の獲得だけでなく、伝え合う楽しさや喜びも実感できるようにしたい。

<手立て>

(1) 伝え合う喜びを味わう場の設定

- ・聞き手参加型の発表会(クイズ・感想発表)
- ・付箋を使った感想やアドバイス
- ・誰もが話し合いに参加できるように、自分の考えをメモなどにまとめる

(2) 児童にとって興味や必要感のある課題の設定

- ・児童にとって身近な課題やテーマを話題にする
- ・児童にとって関心の高いテーマを取り上げる



4 本校において児童に身に付けさせたい力

	低学年	中学年	高学年
話す	事柄の順序を考えて話す。 大きな声で話す。	根拠をはっきりさせて話す。(理由) 聞き手に聞こえる声で話す。	資料をもとにし、相手に伝わるように話す。 場に応じた声で話す。
聞く	していることをやめて聞く。 話している人の方を向いて聞く。	うなずきながら聞く。 話の中心に気をつけて聞く。	自分の考えと比べながら聞く。
話し合う	話題からそれずに話し合う。 最後まで集中して話し合う。	共通点や相違点を意識して話し合う。	意図をはっきりとさせ話し合う。 どのように意見をまとめていくか考えながら話し合う。 (合意形成)

5 活動の実践

【第2学年 授業実践】

- 1 単元名 むかしのお話を楽しもう
『おすすめの本をしょうかいしよう。』

2 単元について

(1) 身に付けさせたい力

○事柄の順序を考えて話す力。

○話している人の方を向いて聞く力。

(2) 単元観

本単元は、国語科学習指導要領の以下を受けて設定した。

A 話すこと・聞くこと

- (1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で話すこと。

エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。

C 読むこと

- (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子に気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力をつけさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項

- (ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

本単元は、古くから伝わっているお話を聞き、場面の様子を想像して楽しむことをねらいとしている。まず、教師の「いなばのしろうさぎ」という神話の読み聞かせを聞くことから学習を出発させる。本文の要所要所に描かれている挿絵を目で追いながら、ストーリーを確認していく。今から千三百年も前から語り伝えられ、読み継がれてきた話であることをおさえ、児童に興味をもたせたい。ここでは、本校の研究主題である「豊かに表現する力、伝え合う力の育成」を受けて、児童それぞれが読んだ伝統的な物語を友達に紹介する活動を取り入れた。古くから伝わっているいろいろな昔話を読み、楽しさを実感させたい。今とは違う登場人物の様子や情景、話の展開のおもしろさなどを、昔話や神話・伝承などの本や文章に触れることによって味わい、それを友達に伝える活動を通して深めたいと考えている。

(3) 児童の実態 (全校アンケートから) 第2学年

男子16名 女子11名

質 問 事 項	
1 国語ではどの学習が好きですか。 (複数回答)	ア 話すこと・・・13名 イ 聞くこと・・・19名 ウ 話し合うこと・・・14名 エ 書くこと・・・20名 オ 漢字の学習・・・21名 カ 言葉の学習・・・17名
2 どのようなことに気を付けてみんなの発表を聞いていますか。 (複数回答)	ア 返事をする・・・21名 イ していることをやめる・・・16名 ウ 相手に体を向ける・・・22名 エ あいづちをうつ・・・17名 オ うなづく・・・17名 カ 最後まで聞く・・・22名 キ 質問をする・・・9名 ク 比べながら聞く・・・15名
3 話し方の学習は大切だと思いますか。	ア とても思う・・・26名 イ 少し思う・・・1名 ウ あまり思わない・・・0名 エ 思わない・・・0名
4 聞き方の学習は大切だと思いますか。	ア とても思う・・・26名 イ 少し思う・・・1名 ウ あまり思わない・・・0名 エ 思わない・・・0名
5 話し合いの学習は大切だと思いますか。	ア とても思う・・・22名 イ 少し思う・・・4名 ウ あまり思わない・・・1名 エ 思わない・・・0名
6 話し方の学習は役に立った・よかったと思いますか。	ア とても思う・・・26名 イ 少し思う・・・1名 ウ あまり思わない・・・0名 エ 思わない・・・0名
7 聞き方の学習は役に立った・よかったと思いますか。	ア とても思う・・・24名 イ 少し思う・・・3名 ウ あまり思わない・・・0名 エ 思わない・・・0名
8 話し合いの学習は役に立った・よかったと思いますか。	ア とても思う・・・25名 イ 少し思う・・・2名 ウ あまり思わない・・・0名 エ 思わない・・・0名

以上のアンケートの結果から、本学級の児童は、国語の学習において、「聞くこと」が好きと答えた児童が7割いる。本研究を進めるにあたって、子どもたちの意欲を持続させながら取り組んでいけるようにしたい。「話し方」や「聞き方」の学習については、全員の児童が「大切」だと思っているので、発達段階に応じた指導を行い、教科指導へとつなげていけるようにする。

この学習を通して、友達に発表するためには準備の段階が大事になってくることを理解させ、自信をもって発表できるような手立てを工夫していきたい。

(4) 指導観（仮説との関連）

【仮説1】

話を聞く場面において、聞き手を育てれば、自分の思いや考えを主体的に伝え合うことができるであろう。

<手立て（1）活動の仕方のルール作り>

- 話し方や聞き方の掲示物を作成し、いつでも見られるようにする。
- みんなの前で話す機会を設定し、日頃から「聞こうとする」意識を高められるようにする。

<手立て（2）見通しをもった取り組み>

- 発表する内容を明確にし、聞く視点をはっきりさせる。
- 本の紹介の仕方や聞き方の手本を紹介する。

<手立て（3）繰り返す場の設定>

- 紙芝居の発表の場では、「一人」→「班」→「学級」へと段階的に聞き手を増やすことで、繰り返し発表できるようにする。

【仮説2】

「話す」「聞く」「話し合う」場面において、自分の思いや考えを表現する言語活動を工夫すれば、伝え合う力が高まるだろう。

<手立て（1）伝え合う喜びを味わう場の設定>

- 紙芝居を作り、班で紹介し合うことにより、おもしろさが伝わるかどうか判断する機会を作る。
- 発表後に内容について発表者がクイズを出し、聞き手が回答者として発表に参加することで、聞き手も必要感をもって聞くことができるようにする。

<手立て（2）児童にとって興味や必要感のある課題の設定>

- 児童にとって興味・関心の高い昔話を選定できるようにする。

3 単元の目標

- いろいろな昔話に興味をもち、読もうとする。(関心・意欲・態度)
- 自分の読んだ昔話について伝えたいことがよくわかるように話したり、友達の話伝えたいことを落とさないように聞いたりすることができる。(話すこと・聞くこと)
- 古典との出会いとして、神話や昔話などの伝統的な言語文化のおもしろさに触れることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 学習指導計画(8時間扱い)

選・聴	学習内容	評価規準	具体的な手立て
つかむ (3)	○古くから伝わっている話に興味をもつ。 ○教師の読み聞かせ「いなばのしろうさぎ」を聞き、おもしろかったところを発表する。	○いろいろな昔話に興味をもち、読もうとする。 (関心・意欲・態度) ○古典との出会いとして、神話や昔話などの伝統的な言語文化のおもしろさに触れることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○昔話や神話・伝承などの本や文章を、興味をもって聞こうとするために読み聞かせを行う。 ＜手立て(2) 見通しをもった取り組み…仮説1＞
	○おもしろかったところを声に出して読み合う。		○主語と述語の関係に注意して、話の内容を聞き、気に入った場面を声に出して読ませる。 ＜手立て(2) 児童にとって興味や必要感のある課題の設定…仮説2＞
	○紙人形を使って、うさぎがわにの背中を渡る場面の様子を想像する。		○場面の様子を想像し、想像を広げながら読むことで、活動の見通しをもたせる。 ＜手立て(2) 見通しをもった取り組み…仮説1＞
深める (3)	○昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読み、友達に紹介したい本を1冊選ぶ。	○自分の読んだ昔話について伝えたいことがよくわかるように話したり、友達の話伝えたいことを落とさないように聞いたりすることができる。 (話すこと・聞くこと) ○古典との出会いとして、神話や昔話などの伝統的な言語文化のおもしろさに触れることができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○国語の時間や朝読書の時間を利用して、本を読ませる。 ＜手立て(2) 児童にとって興味や必要感のある課題の設定…仮説2＞
	○友達に紹介したい本を1枚の紙芝居に作って、話す練習をする。		○自分が選んだ本の絵を描き、紹介するための紙芝居を作らせる。 ＜手立て(2) 見通しをもった取り組み…仮説1＞ ○自分が選んだ昔話についての紙芝居を作り、本の紹介をする。 ＜手立て(1) 伝え合う喜びを味わう場の設定…仮説2＞

ま と め る (2)	本時 7/8	○1枚の紙芝居を使って、 本の紹介をする。 (班ごと)	○自分の読んだ昔話につ いて伝えたいことがよ くわかるように話した り、友達の話伝えたい ことを落とさないよう に聞いたりすることが できる。 (話すこと・聞くこと)	○話し方、聞き方のポイントを揭示 することで、話し合いの視点を明 確にする。 ＜手立て（1）活動の仕方のルール 作り…仮説1＞ ○発表する相手の人数を増やしな がら自信をもって本の紹介をさ せる。 ＜手立て（3）繰り返す場の設定… 仮説1＞
		○1枚の紙芝居を使って、 『紙芝居やさんごっこ』 をして、本を紹介する。 (学級で)	○古典との出会いとして、 神話や昔話などの伝統 的な言語文化のおもしろ さに触れることがで きる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○話し方、聞き方のポイントを揭示 することで、話し合いの視点を明 確にする。 ＜手立て（1）活動の仕方のルール 作り…仮説1＞ ○発表する相手の人数を増やしな がら自信をもって本の紹介をさ せる。 ＜手立て（3）繰り返す場の設定… 仮説1＞

5 本時の指導（7／8）

（1）目標

○自分の選んだ本のおもしろさを伝えようとする。

(関心・意欲・態度)

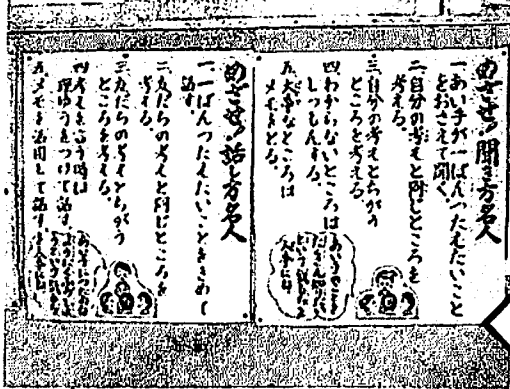
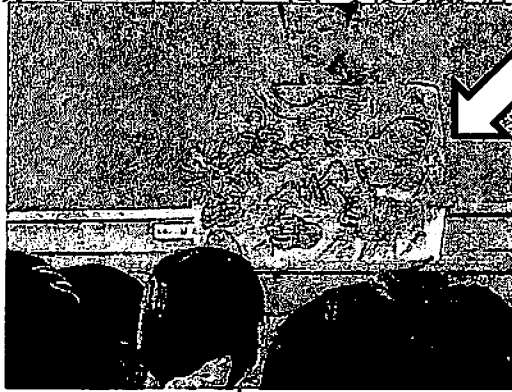
○自分の読んだ昔話についておもしろさを伝えようという気持ちで話したり、おもしろさをわかろうとして聞いたりすることができる。

(話すこと・聞くこと)

○昔話を紹介する友達の話をよく聞き、話のおもしろさに気付くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 展開

時配	学 習 活 動	指導上の留意点 (○) と評価 (●)	資料
5	1 本の紹介の仕方を確認する。 	○本の紹介では、友達の話をよく聞くこと、自分の話す番では、友達におもしろさがわかってもらえるように話すことを確認する。 ○友達の話の後に質問をして、話し合いをもつことを知らせる。 ○話し方、聞き方のポイントを掲示することで、話し合いの視点を明確にする。 ＜仮説 1＞	おススメの本 本の紹介の例 質問のヒント
2 3	2 本の紹介を始める。 ・グループごとに自分の選んだ本の話をする。  ＜紹介する人＞ ①話のあらすじやおもしろいところを伝える。 ②お話についてのクイズを入れてもよい。 ＜聞く人＞ ①どんなお話か、一生懸命に聞く。 ②質問があったらする。 ③読みたいと思った本は、メモしておく。	○おもしろかったところが伝わるように、1枚の紙芝居にして発表させる。 ＜仮説 2＞ ○本の紹介に困っている児童には、みんなに聞こえる声で自信をもって発表できるように、側について助言する。 ○発表する相手の人数を増やしながら自信をもって本の紹介をさせる。 ●おもしろさを伝えようという気持ちで一生懸命に話すことができたか。 ○発表後に内容について発表者がクイズを出し、聞き手が回答者として発表に参加できるようにする。＜仮説 2＞ ●友達の話す昔話のおもしろさをわかろうとして聞くことができたか。	話し方の掲示 聞き方の掲示
1 0	3 グループの発表が終わったら、友達の紹介した本について感想を書く。	○友達の紹介を聞いて感じたことをカードに書き、感想を発表できるようにする。 ＜仮説 2＞	

	・早く感想が書き終わったら、紹介された本を読んで待つ。	●昔話を紹介する友達の話をよく聞き、話のおもしろさに気付くことができたか。 ○早く感想を書くことができた児童は、友達の紹介した本を読んで待たせる。 ○なかなか感想を書けない児童には、友達の発表のよい点やもっとわかりやすく発表するためのアドバイスを書くように声をかける。	
5	4 本の紹介をして感じたことを発表する。	○本の紹介をしたり、聞いたりして気付いたことや考えたことを発表させる。 ○よい話し方や聞き方ができている児童を紹介し、意欲をもたせる。	
2	5 学習を振り返り、次時の学習について知る。 ・次時は、学級全員で紙芝居をすることを知る。	○次回の学級全体での紹介では、よりわかりやすく紹介したり、よりしっかりと話を聞いたりできるように意欲をもたせる。	

(3) 板書計画

めざせ！聞き方名人！	めざせ！話し方名人！	・話のあらすじやおもしろいところをつたえる。 ・聞く人はかんそうを話したり、しつもんをしたりする。 ・お話についてのクイズをいれてもよい。 ・読みたいと思った本はメモしておく。	本のしょうかいのし方	おすすめの本をしょうかいしよう。	むかしのお話を楽しもう
------------	------------	---	------------	------------------	-------------

【本時の成果と課題(成果○ 課題●)】

- 日頃から掲示物を使って、話の聞き方を意識させたので最後まで聞くことができるようになってきた。
- 発表後、一番心に残っていることやおもしろかったことをクイズにしたので、クイズに答えたいという必要感をもって友達の発表を聞くことができた。
- 聞き手に聞く視点を与えたので、自分の考えをもちながら聞く児童が増えた。
- 「話すこと」「聞くこと」のスキルは、もっと日常の中で行い、国語の授業では、国語でしかできないことをするようにしたい。

【第4学年 活動実践】

- 1 単元名 話の組み立てを考えて、発表しよう
『写真をもとに話そう』

2 単元について

(1) 身に付けさせたい力

- 根拠をはっきりさせて話し、聞き手に聞こえる声で話す力。
- 話の中心に気を付けて聞く力。
- 共通点や相違点を意識して聞き、感想を伝える力。

(2) 単元観

本単元は、国語科学習指導要領の以下を受けて設定した。

A 話すこと・聞くこと

- (1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

エ 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) イ言葉の特徴やきまりに関する事項

- (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また語句には性質や役割の上で種別があることを理解すること。

本単元は、写真から読み取ったことを基にして、話したり聞いたりする言語活動である。まず、「つくしとてんとう虫」の写真を見て、どのようなことが読み取れるか、想像できるかを話し合い、メモや発表の例を読んで学習の流れをつかむことから学習を出発させる。

スピーチメモを作るときには、写真の第一印象や背景・大きさ・位置・色合い・様子や、被写体の心情や、被写体同士の会話、周囲に写っているものとの関わりなどについて、想像したことを含めて自分の考えを持ち、題名をつけたり、読み取ったことの中心がわかるように話を組み立てたりできるようにする。スピーチの発表をするときには、写真を示しながら、メモをもとに話のまとめや適切な言葉遣いなどに気をつけて行う。また、聞き手は、話し手の思いや考えの中心を聞き取ったり、自分の読み取ったことと比べてその共通点や相違点を見つけたり、新たな情報を自分の考えに生かしたりすることを心がけられるようにする。

同じ一枚の写真でも読み取りは人によってさまざまであることに気づかされ、それらを比べ合うことにより、表現の仕方の多様さからお互いを認め合うことができ、伝え合う喜びを大切に学び合うことにつながると考える。

(3) 児童の実態（全校アンケート参照）第3学年のもの 男子18名 女子21名

質 問 事 項	
1 国語ではどの学習が好きですか。 (複数回答)	ア 話すこと・・・・・・・・・・11名 イ 聞くこと・・・・・・・・・・17名 ウ 話し合うこと・・・・・・・・20名 エ 書くこと・・・・・・・・・・15名 オ 漢字の学習・・・・・・・・26名 カ 言葉の学習・・・・・・・・22名
2 どのようなことに気を付けてみんなの発表を 聞いていますか。 (複数回答)	ア 返事をする・・・・・・・・・・8名 イ していることをやめる・・24名 ウ 相手に体を向ける・・・・・32名 エ あいづちをうつ・・・・・10名 オ うなづく・・・・・・・・・・15名 カ 最後まで聞く・・・・・・・・37名 キ 質問をする・・・・・・・・・・8名 ク 比べながら聞く・・・・・17名
3 話し方の学習は大切だと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・32名 イ 少し思う・・・・・・・・・・6名 ウ あまり思わない・・・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・1名
4 聞き方の学習は大切だと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・32名 イ 少し思う・・・・・・・・・・6名 ウ あまり思わない・・・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・1名
5 話し合いの学習は大切だと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・30名 イ 少し思う・・・・・・・・・・8名 ウ あまり思わない・・・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・1名
6 話し方の学習は役に立った・よかったと思 いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・25名 イ 少し思う・・・・・・・・・・11名 ウ あまり思わない・・・・・・・・3名 エ 思わない・・・・・・・・・・0名
7 聞き方の学習は役に立った・よかったと思 いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・27名 イ 少し思う・・・・・・・・・・11名 ウ あまり思わない・・・・・・・・1名 エ 思わない・・・・・・・・・・0名
8 話し合いの学習は役に立った・よかったと思 いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・28名 イ 少し思う・・・・・・・・・・10名 ウ あまり思わない・・・・・・・・1名 エ 思わない・・・・・・・・・・0名

以上のアンケートの結果から、本学級の児童は、国語の学習において、半数が「聞くこと」や「話し合う」が好きと答えている。話しの聞き方においては、相手に体を向けることや最後まで聞くことが大切だと考えている児童が多い。「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」全てにおいて、大切・役に立った・よかったと感じている児童がほとんどなので、この学習を通して、子どもたちの意欲を向上させた上で、学んだことを繰り返し実践できる場を工夫したい。そして、聞いてもらえる喜びや伝え合うことの楽しさを実感できるようにしたい。

(4) 指導観（仮説との関連）

【仮説1】

話を聞く場面において、聞き手を育てれば自分の思いや考えを主体的に伝え合うことができるであろう。

〈手立て(1) 活動の仕方のルール作り〉

- 話し手や聞き手の掲示物を作成し、いつでも見られるようにする。
- 「朝の会」「帰りの会」で必ず「集中タイム」を設け、聞き方の姿勢を意識できるようにする。
- 自分のスピーチや、友達のスピーチを振り返ることで、これからの発表や、聞き方に意識をもてるようにする。

〈手立て(2) 見通しをもった取り組み〉

- 2グループに分かれ、お互いの発表の様子を映像で振り返ることで、話し手と聞き手の技術を身につけることができるようにする。

〈手立て(3) 繰り返す場の設定〉

- ドリルタイムに定期的に聞き取りクイズを行い、楽しみながら「聞くこと」の技術を身につけるようにする。

【仮説2】

「話す」「聞く」「話し合う」活動において、自分の思いや考えを表現する言語活動を工夫すれば、伝え合う力が高まるだろう。

〈手立て(1) 伝え合う喜びを味わう場の設定〉

- 同じ写真を選んだ小グループ内での発表練習を繰り返し行い、聞き手は付箋を使って感想やアドバイスを伝えるようにする。
- グループごとの発表では、発表→感想、アドバイス（聞き手）→感想（話し手）と振り返りの時間を作る。

〈手立て(2) 児童にとって興味や必要感のある課題の設定〉

- 教科書にある写真だけでなく、身近な動物園で撮った写真を用意することで、興味をもったり、想像を広げたりできるようにする。
- 1枚に決められない児童は、朝の会などで発表できる機会を作る。

3 単元の目標

○1枚の写真から読み取ったこと、想像したことを進んで伝えようとしている。

(関心・意欲・態度)

○読み取ったことを、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができる。

(話すこと・聞くこと)

○話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを考えながら、感想を伝えることができる。

(話すこと・聞くこと)

4 学習指導計画(8時間扱い)

過程・時配	学習内容	評価規準	具体的な手立て
つかむ (2)	○単元名やリード文を読み、一番伝えたいことをどのようにして伝えたらよいかについて話し合い、学習の見通しを持つ。	○写真から読み取ったり、想像したりしたことをメモしようとしている。 (興味・意欲・態度)	○今までの経験をもとに、話し手として気をつけることや、聞き手側からの「こうして話してくれるととっても分かりやすい」という意見を引き出せるようにする。 ＜手立て(1) 活動の仕方のルール作り…仮説1＞ ○話し手や聞き手の掲示物を作成し、いつでも見られるようにする。
	○写真を決め、写真から読み取ったことをメモにまとめる。 ○伝えたことが相手にわかるように、写真に題をつける。		○全体から受ける印象や、写っている物の大きさや色、形などに着目させるようにする。写っている物の気持ちやセリフを考えさせたり、写真に写る前後の様子など考えさせたりして、想像を広げさせられるようにする。 ○伝えたいことの中心がはっきりするように、メモを読み返しながらか題を考えられるようにする。 ＜手立て(2) 児童にとって興味や必要感のある課題の設定…仮説2＞ ＜手立て(2) 見通しをもった取り組み…仮説1＞
深める (5)	○発表のための準備をする。 ○メモをもとにスピーチ内容を決め、どのような順番で話すかなど、話しの組み立てを考える。 ○小グループ(2～3人)で向かい合い、内容、話の組	○読み取ったことを、組み立てに気をつけて話している。 (話すこと・聞くこと) ○話の中心に気をつけて聞き、自分の	○友達の発表を聞いたときには、感想や助言を伝えるようにさせる。 ＜手立て(1) 伝え合う喜びを味わう場の設定…仮説2＞ ○小グループ内での発表練習を繰り返すを行い、聞き手は付箋を使って感想やアドバイスを伝えるようにする。

5 本時の指導（7／8）

（1）目標

○読み取ったことを、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができる。

（話すこと・聞くこと）

○話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを考えながら、感想を伝えることができる。

（話すこと・聞くこと）

（2）展開

時配	学 習 活 動	指導上の留意点（○）と評価（●）	資料
5	1 前時に行った前半グループの発表を振り返りもう一度、めあての確認をする。	○話す人、聞く人のめあてを再確認し、よりよい発表ができるよう意識を高められるようにする。＜仮説1＞	話し方の掲示
	話の組み立てを考えて、写真から読み取ったことや想像したことを発表したり、話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを見つけて感想を伝えたりしよう。		聞き方の掲示
30	2 グループごとに前に出てきて発表する。 〈話す人〉 ・伝えたいことをはっきりと話す。 ・理由や事例をあげながら話す。 ・筋道を立てて発表する。 〈聞く人〉 ・写真から読み取ったことがはっきりしていたかを意識して聞く。 ・話の組み立てが考えられていたか、まとまっていたかを聞き取る。 ・自分の考えとの違いを見つける。 ＜発表の流れ＞ ・発表→感想（聞く人）→感想（話す人）の順に1人ずつ行う。	 ○友達の見方や考え方の「どこが」「どうして」おもしろいと思ったのかを具体的に伝えられるように促す。 ＜仮説2＞ ●読み取ったことを、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができたか。 ●話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを考えながら、感想を伝えることができる。	スピーチ用メモ 発表の流れの掲示物
10	3 振り返りカードを書く。 ・友達のスピーチについて ・自分のスピーチについて ・自分と友達の見方や考え方を比べて	○振り返りの難しい児童には、板書の振り返りタイムを見て、それをヒントに書けるように促す。＜仮説1＞	振り返りカード

(3) 板書計画

写真をもとに話そう

話の組み立てを考えて、写真から読み取ったことや想像したことを発表したり、話の中心に気をつけて聞き、自分の考えとの違いを見つけて感想を伝えたりしよう。

発表会の流れ

○ グループで決めた順番で発表します。

発表 ← 感想・意見（聞く人） ← 感想（話す人）

○ ふり返りタイム

- ・ すらすら読めている
- ・ みんなを見て話している。

【本時の成果と課題(成果○ 課題●)】

○日頃から「上手に話し合おう」の掲示物を使って確認するようにしたので、児童の意識が高まり、話し合い活動が活発になってきた。

○「写真を見て感じたこと」という、明確なテーマを設定し、大きな写真も用意したので、見通しをもって活動を行うことができた。

○教師が見本を見せることで、簡単なイメージができるようになり、意欲的に説明を考えることができるようになってきた。

●感想発表以外でも、聞いている児童が聞こうとするための工夫が必要である。

みんなで上手に話し合おう

 話し合う	 聞く	 話す
・ 共通点と相違点を意識しながら	・ うなずきながら ・ 話の中心に気をつけて	・ みんなに聞こえる声で ・ 理由をはっきりとさせて



【第6学年 活動実践】

1 単元名 「グループで話し合おう」

2 単元について

(1) 身に付けさせたい力

- 自分の考えと比べながら聞く力。
- 意図をはっきりとさせて話し合う力。

(2) 単元観

本単元は、国語科学習指導要領の以下を受けて設定した。

A 話すこと・聞くこと

- (1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

- (1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

児童はこれまでに、第3学年の「係の活動について考えよう」では小集団での話し合い、第5学年の「意見交換会をしよう」でディベート的な討論を行ってきた。本単元では、小グループでの意見をまとめる話し合いを行うものである。色々な考えを一つにまとめる学習は、特別活動のリーダーとして活動することの多い第6学年には、この早い段階で取り組むことが望ましいと言える。

話し合いにはグループやクラス全体での共通理解や問題解決に向けて考えを一つにまとめていく「協議」と、違いを大事にしながら多くの考えを関係づけていく「討論」とがある。本教材は、第6学年が中心となって活動する「縦割り班活動」の遊びを決めるという「協議」の形式である。意見交換の場では、児童それぞれの思いや好みなどが案としてでることも考えられるが、下の学年の児童も楽しめることを条件として意見をまとめる必要がでてくる。そのため、話し合う過程で、条件に合うかどうか質問し修正していくことが大切になる。本学習では自分の考えと比べること、意図をはっきりさせて話すことで、最終的にみんなが納得できる結論が導き出せるような話し合い活動になるであろうと考える。また、教科書に載っている「縦割り班活動」などの遊びだけでなく、その他で、学校全体のためになることを議題とすることは、児童にとって必要感のある話し合いになるだろうと考える。

(3) 児童の実態 (全校アンケート参照) 第5学年時のもの 男子9名 女子11名

質 問 事 項	
1 国語ではどの学習が好きですか。 (複数回答)	ア 話すこと・・・・・・・・・・3名 イ 聞くこと・・・・・・・・・・7名 ウ 話し合うこと・・・・・・・・10名 エ 書くこと・・・・・・・・・・8名 オ 漢字の学習・・・・・・・・8名 カ 言葉の学習・・・・・・・・6名
2 どのようなことに気を付けてみんなの 発表を聞いていますか。 (複数回答)	ア 返事をする・・・・・・・・・・3名 イ していることをやめる・・・・7名 ウ 相手に体を向ける・・・・16名 エ あいづちをうつ・・・・・・1名 オ うなずく・・・・・・・・・・7名 カ 最後まで聞く・・・・・・・・13名 キ 質問をする・・・・・・・・・・1名 ク 比べながら聞く・・・・・・7名
3 話し方の学習は大切だと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・10名 イ 少し思う・・・・・・・・・・8名 ウ あまり思わない・・・・・・1名 エ 思わない・・・・・・・・・・1名
4 聞き方の学習は大切だと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・11名 イ 少し思う・・・・・・・・・・9名 ウ あまり思わない・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・0名
5 話し合いの学習は大切だと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・13名 イ 少し思う・・・・・・・・・・6名 ウ あまり思わない・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・1名
6 話し方の学習は役に立った・よかったと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・11名 イ 少し思う・・・・・・・・・・7名 ウ あまり思わない・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・3名
7 聞き方の学習は役に立った・よかったと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・8名 イ 少し思う・・・・・・・・・・9名 ウ あまり思わない・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・3名
8 話し合いの学習は役に立った・よかったと思いますか	ア とても思う・・・・・・・・・・8名 イ 少し思う・・・・・・・・・・8名 ウ あまり思わない・・・・・・0名 エ 思わない・・・・・・・・・・4名

以上のアンケート結果から、本学級の児童は、国語の学習において、半数の児童が話し合う活動が好きと答えている。国語の学習そのものは嫌いではないが、あまり意欲が高いとはいえないのが現状である。話の聞き方については、話し手の方を向いて、最後まで聞くことを大切だと答えているが、自分がしていることをやめたり、自分の意見と比べながらを意識している児童は、半数にも満たないことがわかる。しかし、「話し方」、「聞き方」、「話し合いの仕方」の学習は大切だと感じている。また、学習したことは役に立ったと答える児童が多く、決して不必要な学習活動とは思っていないのを見て取れる。わずかながら役に立っていると実感できていない児童もいるので、この学習を通して、話し合いの学習のよさが実感を伴った活動になるようにしたい。

(4) 指導観（仮説との関連）

【仮説1】

話を聞く場面において、聞き手を育てれば、自分の思いや考えを主体的に伝え合うことができるであろう。

<手立て（1）活動の仕方のルール作り>

- 漠然と「聞き方」の意識を高めるのではなく、ピア・サポートなどを通して学び、日頃から「聞こうとする」意識を高められるようにする。
- 日頃から話し方や聞き方について意識ができるように、掲示物を作成し、いつでも見られるようにする。
- 話し合う場では、チェックリストを作成し、聞き方についての目標をはっきりさせた上で、取り組めるようにする。また、児童相互で確認する場を設ける。

<手立て（2）見通しをもった取り組み>

- 話し合うテーマを明確にし、児童にとって必要感のあるテーマを設定することで、目的がはっきりした主体的な活動にする。
- 話の聞き方について見本を提示することで、聞こうとする姿勢や話す際のポイントを意識した活動にする。

<手立て（3）繰り返す場の設定>

- 学んだことを生かし、習熟できるように、短時間でも話し合える場を設け、繰り返し話し合うことができるようにする。
- 大事な事柄を落とさずに聞く力を身に付けるために、聞き取りミニゲームを行い、話し手が一番伝えたかったことは何かを確認できるようにする。

【仮説2】

「話す」「聞く」「話し合う」場面において、自分の思いや考えを表現する言語活動を工夫すれば、伝え合う力が高まるだろう。

<手立て（1）伝え合う喜びを味わう場の設定>

- グループで話し合う前に、自分の意見を付箋やメモに書いてまとめる作業を行う。

<手立て（２）児童にとって興味や必要感のある課題の設定>

○児童にとって身近な話題を取り上げ、必要感のある議題の設定をする。

○どの児童も最後まで話し合いに参加できるように、児童にとって関心の高いテーマを設定する。

3 単元の目標

○よりよい結論が出るように進んで話し合っている。

（関心・意欲・態度）

○話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができる。

（話すこと・聞くこと）

○互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。

（話すこと・聞くこと）

○語句と語句との関係を理解している。

（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

4 学習指導計画（４時間扱い）

進・帳	学習内容	評価規準	具体的な手立て
つ か む (2)	○単元やリード文を読み、お互いの意見などを関連付けたり、一つにまとめたりすることについて話し合い、学習の見通しをもつ。	○よりよい結論が出るように進んで話し合っている。 （関心・意欲・態度） ○相手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができる。 （話すこと・聞くこと）	○日頃からピア・サポートなどを通して聞こうとする態度を養う。 <手立て（１）活動の仕方のルール作り…仮説１> ○聞き取りミニゲームを行い、何を話したのかを確認できるようにする。 <手立て（３）繰り返す場の設定…仮説１>
	○教科書の例文で役割演技を行い、意見をまとめるポイントを考える。 ○話し合いの流れをつかみ、自分たちで話し合う題材を決める。	○よりよい結論が出るように進んで話し合っている。 （関心・意欲・態度） ○相手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができる。 （話すこと・聞くこと） ○互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。 （話すこと・聞くこと）	○話し合うテーマを明確にし、簡単なものから始めていくように題材を設定する。 <手立て（２）見通しをもった取り組み…仮説１> ○話し合いの方法を確認し、活動しやすくするために、「話し合いの約束」の掲示物を作成する。 <手立て（１）活動の仕方のルール作り…仮説１>

深める (1)	○題材についてお互いに意見を出し合う。 ○話し合いを行い、みんなの意見を一つにまとめる。	○よりよい結論が出るように進んで話し合っている。 (関心・意欲・態度) ○相手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができる。 (話すこと・聞くこと) ○互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。 (話すこと・聞くこと)	○チェックリストを作成し、話し方や聞き方を互いに確認できるようにする。 ＜手立て活動の仕方のルール作り…仮説1＞ ○短時間でも話し合える場を設け、繰り返し話し合うことができるようにする。 ＜手立て(3) 繰り返す場の設定…仮説1＞ ○話し合う前に付箋などを使って、自分の意見を書いてまとめる作業を行う。 ＜手立て(1) 伝え合う喜びを味わう場の設定…仮説2＞
まとめる (1) 本時 4/4	○前時で課題になったことを意識して、新たな題材を決めてお互いに意見を出し合う。 ○話し合いを行い、みんなの意見を一つにまとめる。	○よりよい結論が出るように進んで話し合っている。 (関心・意欲・態度) ○相手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができる。 (話すこと・聞くこと) ○互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。 (話すこと・聞くこと) ○語句と語句との関係を理解している。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	○チェックリストを作成し、話し方や聞き方を互いに確認できるようにする。 ＜手立て(1) 活動の仕方のルール作り…仮説1＞ ○話し合う前に付箋などを使って、自分の意見を書いてまとめる作業を行う。 ＜手立て(1) 伝え合う喜びを味わう場の設定…仮説2＞

5 本時の指導(4/4)

(1)目標

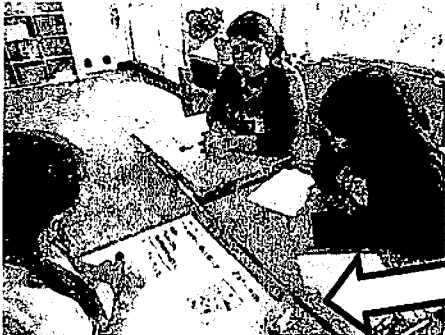
○話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができる。

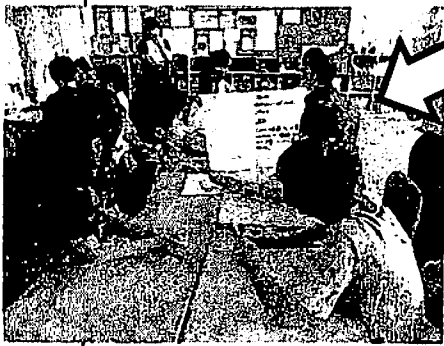
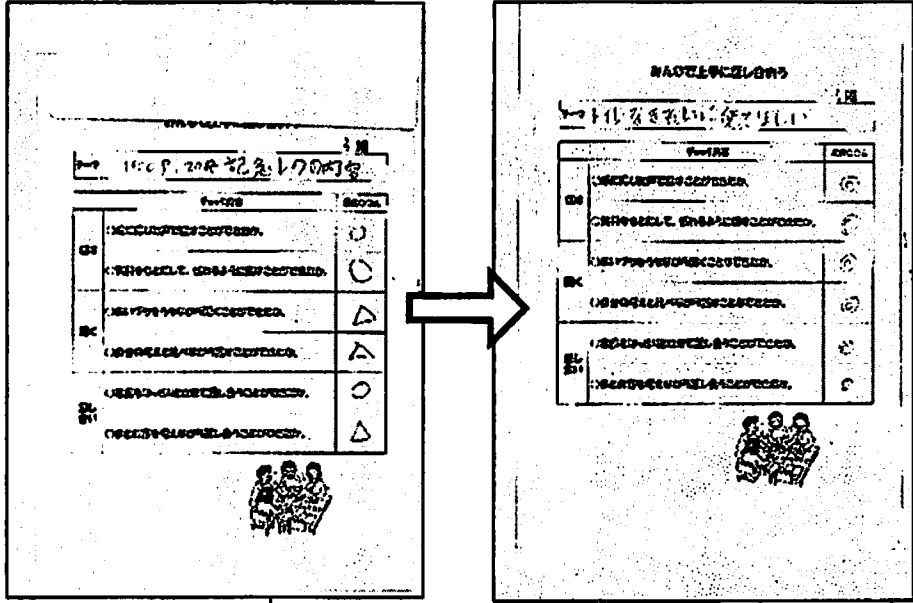
(話すこと・聞くこと)

○互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができる。

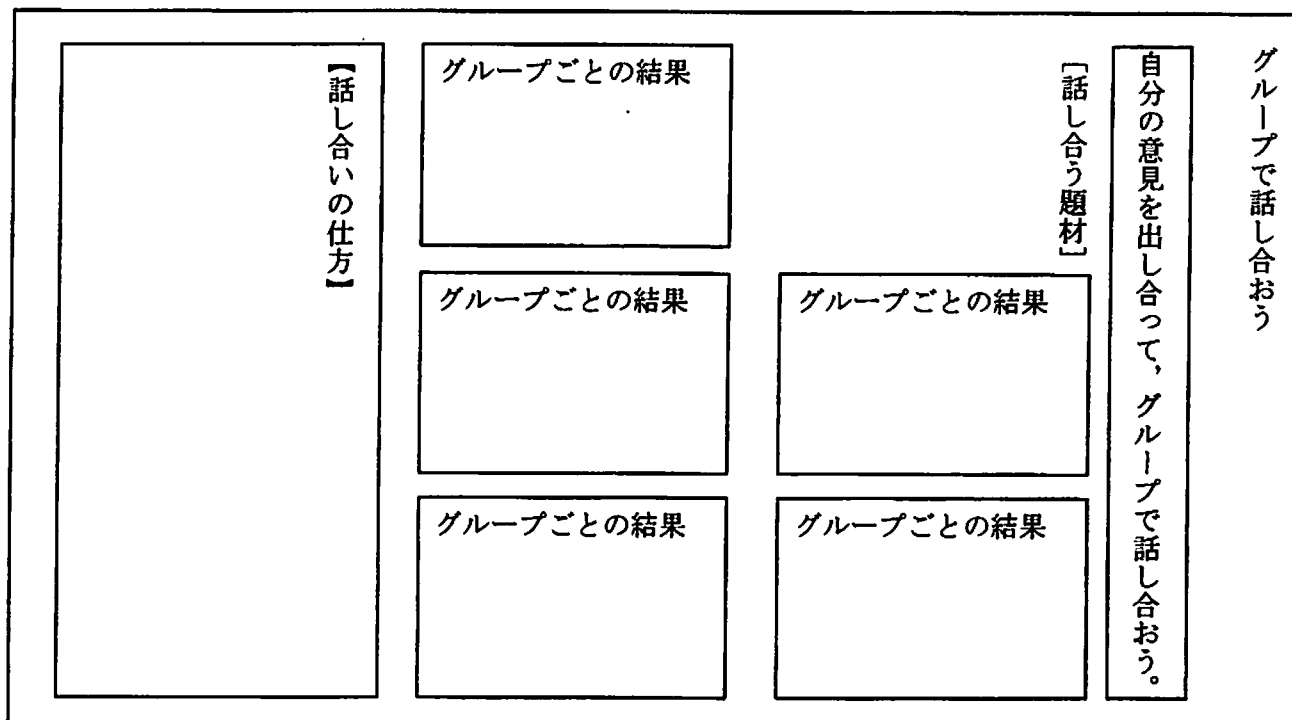
(話すこと・聞くこと)

(2)展開

時配	学 習 活 動	指導上の留意点(○)と評価(●)	資料
5	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 自分の意見を出し合って、グループでまとめよう。 ・学習問題を確認する。 ・話し合う議題を確認する。 「今日の議題は、トイレをきれいに使ってもらうには、どうしたらよいかだったね。」	○掲示物から、前時までの学習を確認することで、意欲を高められるようにする。	前時までの掲示物
15	2 議題に沿って話し合う。 「トイレの使い方が汚い。」 「トイレ掃除が大変だよ。」 「どんなことをしたらよいかな。」 「ポスターを作ったらどうかな。」 「手紙を書いてお願いしよう。」  	○話し合いのルールについて確認し、自分の考えを友達の見解と関連付けて話ができるように促す。＜仮説1＞ ○「聞く」ではなく、「聞こうとする」態度で話し合いに臨めるように意識付けをする。 ○友達の見解と自分の見解が違ってても否定的な言葉を使わず、認め合えるようにする。 ○意見に対する自分なりの簡単な根拠が言えるようにする。 ○チェックリストを使い、話し合いの仕方を確認する。＜仮説1＞ ●話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比べて考えることができたか。 ○ミニホワイトボードを活用して、話し合って決まったことをまとめるようにする。	チェックリスト ミニホワイトボード

		○自分事としてとらえられるように、発表者がグループの誰になってもいいようにする。 ○椅子を移動するなど、ボードに書いている時も、一緒に活動に参加できるようにする。	
15	3 話し合った結果をホワイトボードにまとめ、全体に発表する。 		
10	4 本時の話し合い方について、振り返りを行う。 ・チェックリストによる振り返りをする。 「話の聞き方は上手だったよ。」 「声の大きさに気を付けるといいね。」 「テーマに沿った話ができてたね。」	○チェックリストをもとに、話し方や聞き方を互いに確認し記入する。	チェックリスト
		●互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことができたか。	

(3) 板書計画



【本時の成果と課題(成果○ 課題●)】

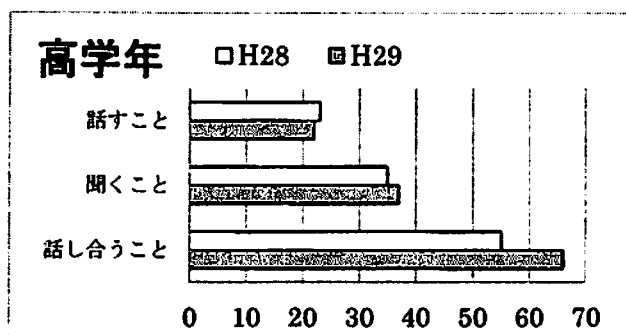
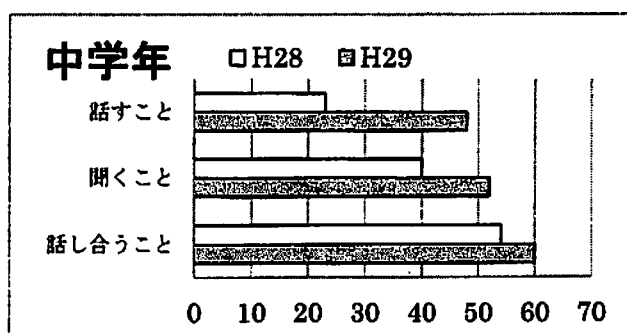
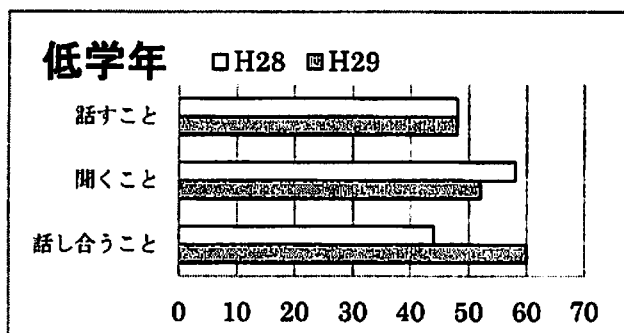
○児童にとって必要感のある課題(テーマ)は、自分事としてとらえるようになり、自分の意見を伝え合う活動になった。

○ミニ・ホワイトボードなどの意見をまとめるためのツールは、考えたことを視覚化して、話し合いを活発にすることができた。

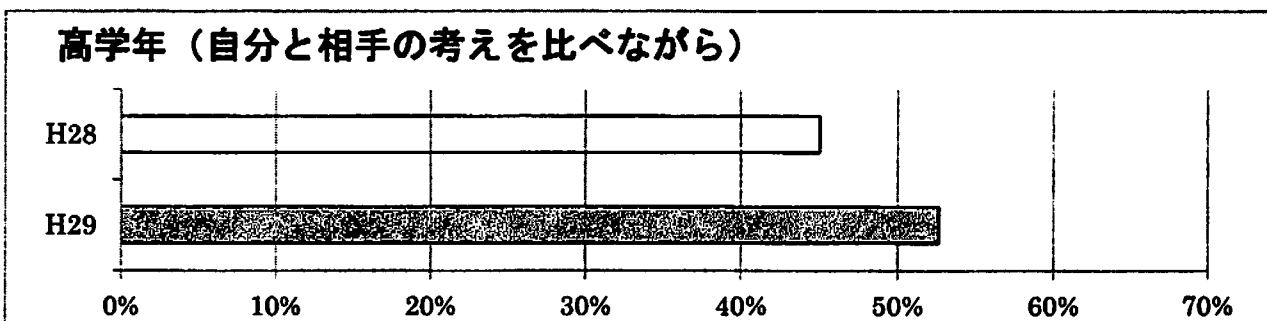
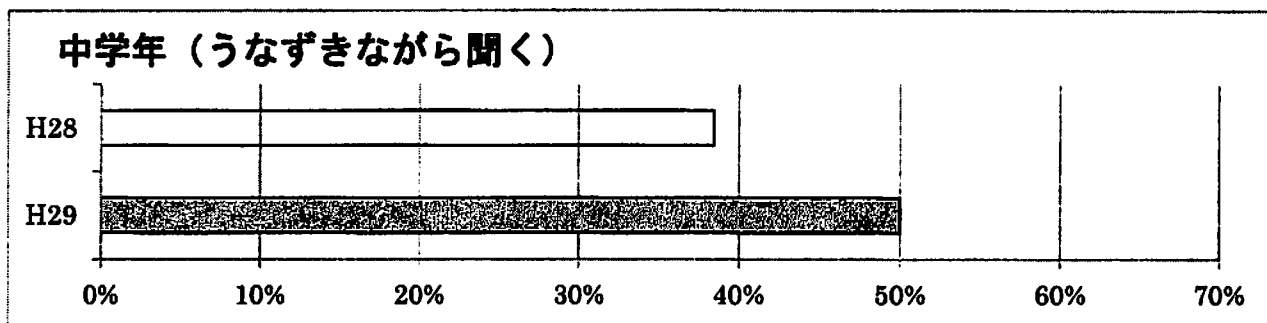
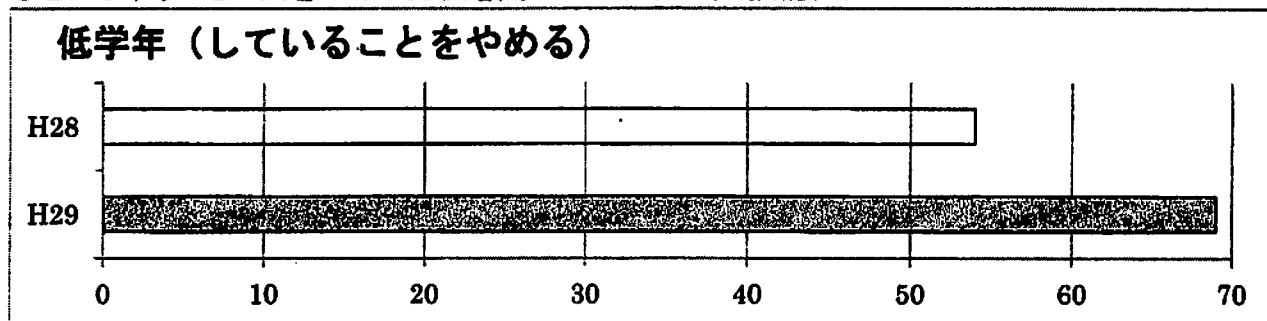
●自己評価のためのチェックリストについて、内容をこれからも工夫していく必要がある。

6 成果と課題

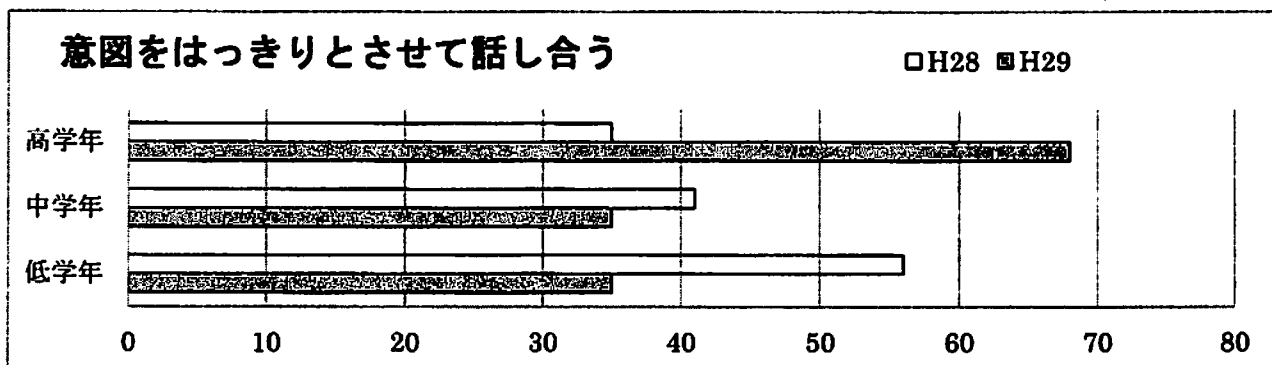
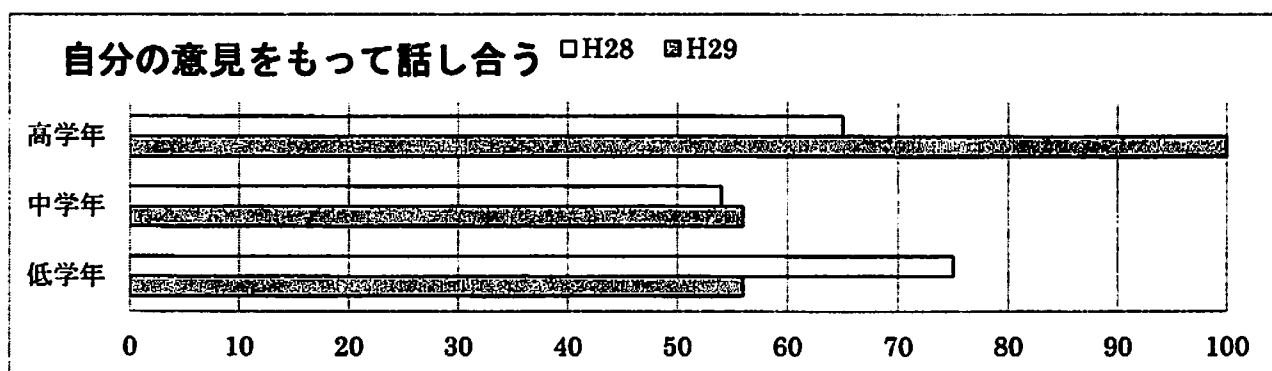
◎国語ではどの学習が好きですか。(情意面)



◎どのようなことに気をつけて発表を聞いていますか。(技能面)



◎どのようなことに気をつけて話し合いをしていますか。(技能面)



<仮説1>

話を聞く場面において、聞き手を育てれば、自分の思いや考えを主体的に伝え合うことができるであろう。

- 「聞くこと」の態度を養うための、掲示物を作成して意識づけをすることで、話し合いに対する意欲を高めることができた。
- 「聞き方」のポイントを明示し日頃から意識させてきたことで、聞き手が育ち、話し手も話す喜びを実感することができた。
- 動画などで話し合いの見本を見ることで、話し合いの仕方が具体的にわかり、聞こうとする態度や話し方などの向上につながった。
- 短時間で行う聞き取りミニゲームは、聞こうとする意識を高め、わからないことは質問をするなどの態度も養われてきた。
- 発達段階に応じた「聞く視点」を校内で検討し、教科指導だけでなく日常の活動でも指導をしていくようにしたい。
- 自己評価のためのチェックリストの内容をこれからも工夫していく必要がある。
- 話し合うための時間をどのように確保するかこれからも継続して研修していきたい。

<仮説2>

「話す」「聞く」「話し合う」場面において、自分の思いや考えを表現する言語活動を工夫すれば、伝え合う力が高まるであろう。

- 児童にとって必要感のある課題(テーマ)は、自分事としてとらえるようになり、自分の意見を伝え合う活動になった。
- 全員が自分なりの意見をもった上で話し合ったので、全員が「聞き手」、「話し手」となって話し合いに参加することができた。
- 自分が選んだ本を紙芝居にすることで、話のあらすじやおもしろかったところを意識して伝えることができた。
- 関心が高いものを選んで発表する活動は、発表後の達成感や満足感にもつなげることができた。
- クイズや感想発表を取り入れ、聞き手参加型の授業を展開したことで、互いに伝え合う喜びを実感することができた。
- 発表するための言語の獲得や、場の工夫をさらに考えていきたい。
- 「話すこと」「聞くこと」のスキルアップを目指し、これからも友達に「話したい」、「聞きたい」と思えるような言語活動の工夫をしていきたい。

7 活動の実践資料

<仮説 1>手立て(1)活動の仕方のルール作り

・低・中・高で系統立てた「聞き方」の具体的な方法を作成する。

学習指導要領と、本校の児童に身に付けさせたい力をもとに、低・中・高別に作成。

【各クラスに掲示している「話す」「聞く」「話し合う」ときのめあて】

みんなで上手に話し合おう！		
話し合う	聞く	話す
・さいごまでしゅう中して ・わだいかからそれずに	・話していることをやめて、話す人の方を見て	・大きな声で、じゅんじよをかんがえて ・していることをやめて、話す人の方を見て
低学年		

みんなで上手に話し合おう！		
話し合う	聞く	話す
・共通点と相違点を意識しながら	・話の中心に気をつけて ・うなずきながら	・みんなに聞こえる声で、理由をはっきりとさせて
中学年		

みんなで上手に話し合おう！		
話し合う	聞く	話す
・まとめ方を考えながら	・あいづちをうちながら、自分の考えと比べながら	・場に応じた声で、資料をもとに伝わるように
高学年		

・話し手・聞き手を相互に見合うようにする。

第3学年「たからものをしょうかいしよう」【役割を分担しての話し方・聞き方チェック】

話す人

▽どきどきするけど、みんなに聞こえる声で話そう。

うなずきながら聞いてくれると話しやすいな。

よし、できるだけみんなの方を向いて話すぞ。

「ぼくの宝物は、ペットの◇◇です。どうしてかというところからです。」

聞く人

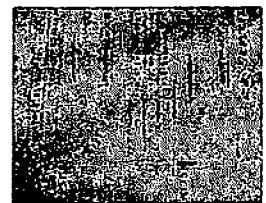
▽うなずきながら聞くと、話す人は安心して話せるんだよね。

うんうん、なるほど。〇〇くんの宝物は、ペットなんだね。理由もよくわかったよ。

観察する人

▽話している人の様子と、聞いている人の様子をよく見て、表にチェックをしよう。
聞き手の□□くんは、うなずきながら聞いていて、すてきだな。

話し方・聞き方チェック表



低・中・高で系統立ててめあてを定めたことで、2年ごとの目指すべきゴールが明確となり、学級差や学年差が減少した。

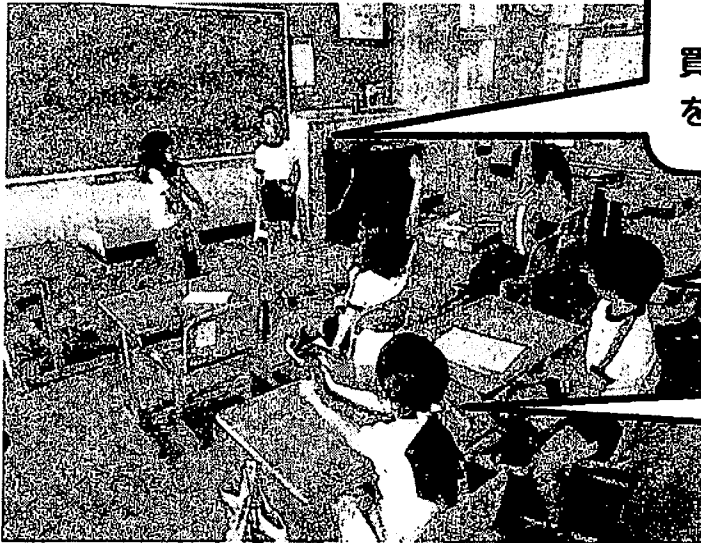
聞く人を客観的に見る経験をしたことで、よい聞き方が広がっていた。聞き手が成長したことにより、話すことに意欲的になった児童が増えた。

観察する人

▽チェックしてみよう。
□□くんの聞き方すごくよかったな。今度私も真似してみよう。

・日頃から聞こうとする意識を育てる

【朝の会でスピーチ】



昨日、楽しかったことは、お家の人と
買い物に行ったことです。僕は、お菓子
を買いました。嬉しかったです。

どこに買い物にいったのですか。

お菓子はおいしかったですか。

友達の話の聞こうとする態度が育って
くると、自然に質問をするようになった。

＜仮説 1＞手立て(2)見通しをもった取り組み

・聞く視点をはっきりさせるために、話し合うテーマを明確にする。

【テーマをはっきりと意識した上での話し合い】

トイレをきれいに使
ってもらうために、自
分たちで呼びかける必
要があるね。

それならトイレをきれ
いに使ってもらいたいこ
とを伝えられるな。

ポスターを作って入口
に貼るのはどうかな。



～小グループの話し合いの様子～

国語科の学習で『トイレをきれいに使って
ほしい』というテーマで話し合いを行った。
ホワイトボードには、
○テーマ ○手立て ○結論
の3点でまとめた。

グループの全員が話し合うテーマを意識できたので、聞き手もテーマに沿っているかを考えながら聞き、話し合いを深めることができた。

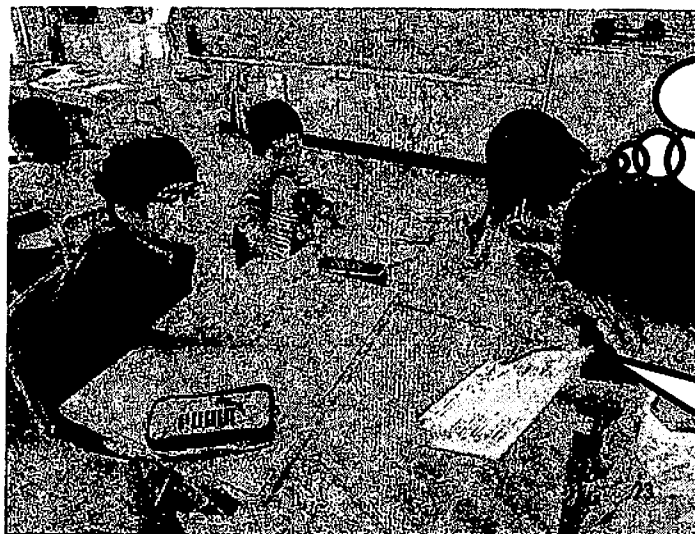
<仮説 1>手立て(3)繰り返す場の設定

・各教科・領域において、短時間で話し合う場を設定する。

【グループによる生活面・学習面の振り返り】（毎週金曜日 5 分間）

話し合い活動の中で司会者を毎回決め、司会者は台本の手順に沿って班会議を行う。台本を活用することで、司会の内容や手順に自信がない児童も、自信をもって司会をすることができた。記録は話し手の内容を正確に聞き取り、書き記すため聞くことの技能を高めるための訓練になっている。

司会や記録は席替えにより、グループが解体された後も同じ台本・同じ用紙に従い活動を行えばよいので、安心して同じ活動を繰り返すことができている。



正確に聞き取って、書かないといけないな。

まず、生活面です。髪型や服装の乱れはどうでしたか？

短時間での話し合い活動になるため、聞きたいことや話したいことを簡潔にまとめてから話す必要がある。司会は台本に従えばよいが、その他の児童は考えたことをまとめながら話す必要があるため、児童が発言する機会が増え、話し合いが活発になる。

短時間で話し合うことを繰り返すことにより児童同士が聞きあう視点も明確になってきた。



いつもていねいに掃除をしていた〇〇さんじゃないかな。

今週一番頑張っていた人を決めます。
〇〇さんは誰だと思えますか。

<仮説 2>手立て(1)伝え合う喜びを味わう場の設定

・聞き手参加型の発表会 第3学年「たからものをしょうかいしよう」

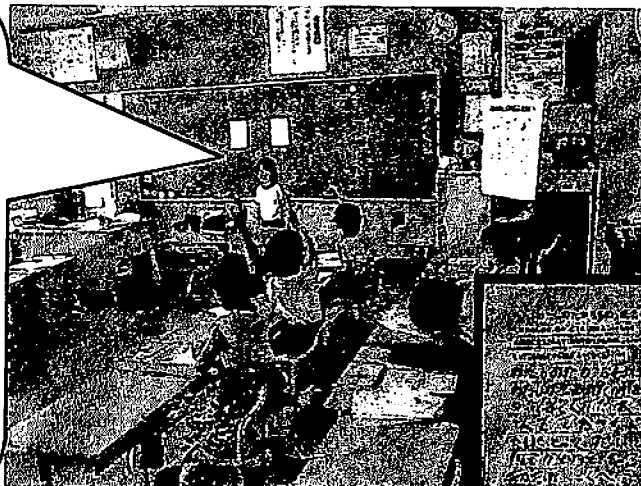
【紹介後の、話し手からのクイズタイムや聞き手からの質問タイム(聞き手参加型)】

「私の宝物は、くまのぬいぐるみです。どうしてかというと、私が生まれたとき、ママの友達がプレゼントしてくれた物だからです。

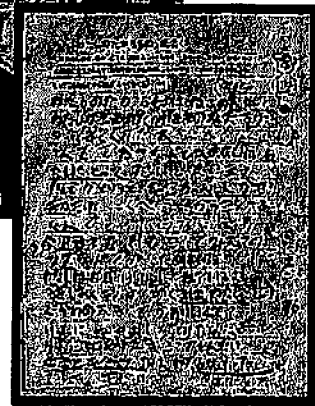
.....

最後にクイズを出します。このくまのぬいぐるみをもらったのは、いつでしょう？」

▽最後にクイズを出したら、たくさんの友達が手を上げて答えてくれたよ。ちゃんと聞いてくれていたんだってわかって、うれしかったな。



【発表原稿】



【発表後、聞き手から話し手へ、感想やアドバイスを付箋に書いてプレゼント】

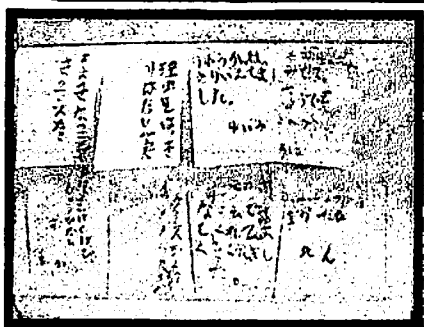


▽大きな声で話してくれて、聞きやすかったな。理由もはっきり話していて、わかりやすかったな。実物があると、もっとよかったな。付箋に書いて知らせよう。



素敵な発表をありがとう！
付箋を読んでみてね。

▽がんばって、大きな声で話してよかったな。また、こんな風に発表してみたいな。



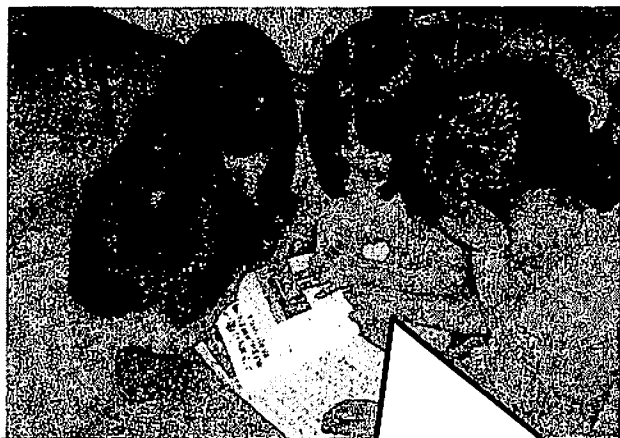
【みんなからプレゼントされた付箋集】

話し手の発表後、聞き手が、話し手からのクイズに参加したり、質問、感想、アドバイス等を伝えるという形で発表に参加したりすることで、互いに充実感を得ることができ、伝え合う喜びを感じ合うことができた。

＜仮説 2＞手立て(2)児童にとって興味や必要感のある課題の設定

・児童にとって身近な課題やテーマを話題にする。第6学年「学校案内パンフレットを作ろう」

【新入生や保護者を対象にした学校案内パンフレット作り】



やっぱり、ブランコが一番人気なんだね！



根木名小のことが詳しく載ってるわ。
すごくわかりやすい。

第5学年「しょうかいポスターを作ろう」

【全校に守ってほしいきまりやマナーについてのポスター作り】



ここは太文字にした方が、見やすい
んじゃないかな。



廊下を走る人が減るといいな。

児童にとって、興味や必要感のある課題を設定してから活動することで、意欲的に学習に取り組むことができた。